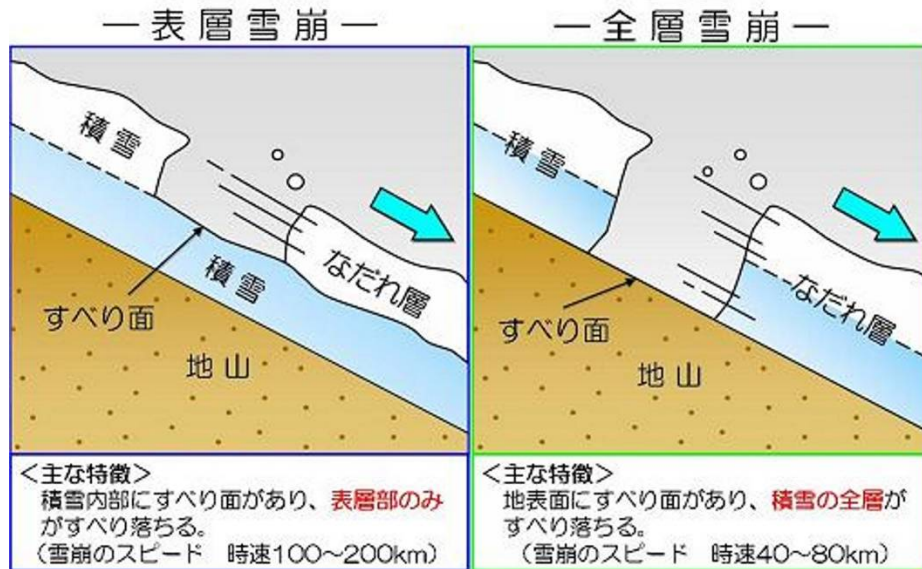


雪崩と言っても、二つの種類がある

1.春先に起こりやすい融雪期の全層雪崩

2.降雪が続く極寒期の表層雪崩



全層雪崩とは

春先に気温の上昇によって地面を流れ落ちるように

積雪全体が滑り落ちる雪崩

時速は 40~80 キロ

発生しやすい条件

- ・春先の降雨後、急な温度の上昇
- ・過去に雪崩が発生した斜面
- ・斜面に背破折の亀裂がある

表層雪崩とは

古い積雪面に新雪が滑り落ちる雪崩、**時速は 100~200 キロ**

発生しやすい条件

- ・気温が低く、旧積雪の上に短時間で大量の雪が積もったとき
- ・急斜面で、雪庇や吹き溜まりのできている斜面
- ・0°以下の気温が続き、吹雪や強風が伴うとき

共に雪崩の前兆現象としては



・雪庇ができている場所
(山の尾根からの雪の張り出し)



・巻きだれ現象
(雪崩予防柵からの雪の張り出し)



・スノーボール 特に注意が必要
(斜面にころころ落ちたてくる、
ゆきのかたまり)



・クラック
(斜面にひかき傷のように雪の裂け目がある、
全層雪崩の危険性が大)



・雪じわ

(ふやけた指先のようなしわ上の雪模様)

・斜面が平らになっている

(斜面に元の地形がわからないほど平らに雪が積もっている場所)

起こりやすい場所

1. 斜面が 30 度以上の場所
2. 落石注意看板などがある場所
3. 低木がまばらな植生の斜面
4. 笹や草に覆われた斜面

(裸地より発生しやすいので注意)

※ グレンデでも雪崩は起こる場合がある